

MERSに関する情報

2015年6月23日 京都大学 環境安全保健機構 健康管理部門

■韓国でMERSが拡大

中東呼吸器症候群Middle-East Respiratory Syndrome (MERS)が中東諸国や韓国で拡大しています。原因は新種のコロナ・ウイルスで、2002～2003年に流行した重症急性呼吸器症候群 Severe Acute Respiratory Syndrome (SARS)と類縁の疾患です。

致命度が高く30～50%とも言われており、約10%だったSARSより強毒性です。ヒトコブラクダがウイルスを媒介し、ヒト-ヒト感染は限定的とされていますが、感染ルートはよくわかっていません。潜伏期間は数日程度で、最長2週間です。

■症状は？ 治療法は？

肺炎を引き起こしますが、非定型的であり、軽症から超重症まで多様なので診断はやや難しいようです。典型例では、発熱や咳嗽から始まり、急速に呼吸状態が悪化します。嘔吐や下痢などの消化器症状も出ることがあります。

特別な治療法はありません。入院して呼吸管理と対症療法を行います。

■予防は？

ヒトとヒトの間では飛沫・接触によって感染すると思われるので、手洗いが最も重要になります。できるだけ石鹸を使います。手が洗えないときのために、アルコールゲルを持ち歩くのもよいでしょう。マスクの効果は不明ですが、手を口や鼻に持ってくるのをブロックする効果があるかもしれません。うがいの効果も確認されていませんが、少なくともMERSと紛らわしい風邪を防ぐ効果はあります。

発生国への渡航は控えるのが賢明です。発生国から帰国・入国したときは、2週間程度の健康観察(体調と体温の記録)を行います。

■高熱や咳が続くときは？

MERS発生国から帰国後2週間以内に、またはMERS患者もしくはその疑いのある人と接触した後に、38度以上の熱が出たときや夜中も咳で目が覚めるようなときは、医療機関には直接行かず、管轄の検疫所や保健所に電話で連絡してください。必要な指示がなされます。



イラスト・武田浩

最新の情報については、下記の「厚生労働省のホームページ 中等呼吸器症候群(MERS)について」を参照してください。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/mers.html>